

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	<ul style="list-style-type: none"> ・外需獲得型商店街に向けた拠点づくりや受入環境の整備、人材育成事業等を支援することにより、個店の集客や売上が向上した。 ・新たな観光体験サービスの創出や土産品の販売強化セミナーの開催等により、観光関連産業の生産性(売上高拡大、高付加価値化)向上の取組を推進した。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・大都市圏等から特定のテーマ毎にバイヤーを招くターゲット別マッチング商談会を開催し、取引機会の創出だけでなく、商品改良に向けた意見を得る機会を創出することにより、県内メーカーのレベルアップを図った。 ・フラッグショップを活用した食材商談会や出張販売、スーパーと連携した大分フェアの開催等により、県産品の県外へのPRができた。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(30年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	元年度の方向性	
①	域外消費型商店街等支援事業	15,612	A	継続・見直し	152
	サービス産業生産性向上支援事業	27,790	A	終了	153
	観光関連消費拡大支援事業	27,291	A	継続・見直し	154
②	県産品販路開拓支援事業	22,347	A	継続・見直し	155
	フラッグショップ活用推進事業	48,041	A	継続・見直し	156
	県産加工食品海外展開支援事業	54,454	A	継続・見直し	157

【VI. 施策に対する意見・提言】

<p>○第3回ツーリズム戦略会議(H31.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレスは、インバウンド客が買い物しやすい環境の整備になる。大分県の高額な産品を買ってもらおうと消費増大につながる。 	<p>○H30第1回中小企業活性化条例推進委員会(H30.7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販路開拓について、コープ大分では、「食べちょくれ大分」という企画で県産品をピックアップしている。イオン等以外でもそうした連携を模索してはどうか。
--	---

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・年々増加する韓国・中国等東アジアに加えて、ラグビーワールドカップ等を契機とする欧米・大洋州からの訪日外国人消費を確実に取り込むとともに、県民の利便性向上及び県内の中小企業・小規模事業者の生産性向上を図るため、キャッシュレス決済の導入を推進する。 ・観光誘客による県経済への波及効果を高めるため、宿泊施設が実施する多様なツーリズム・旅行形態への対応力強化並びにホームページの改善に対する支援を行う。 ・物産振興では、引き続き百貨店やスーパーと連携した「大分フェア」の開催や、大都市圏バイヤーと県内メーカーとのマッチング、おおいた食品産業企業会と連携した商品改良をするほか、海外における販路開拓についても、ジェトロ大分や大分県貿易協会、貿易アドバイザー等との連携強化を図り、企業毎の海外戦略に対応した販路開拓・拡大の取組を実施する。 ・フラッグショップの活用では、民間店舗と連携した物産販売や大手企業への出張販売などにより、県産品の露出機会を増やすとともに、語り部スタッフの研修、地域フェアの開催などにより、大分の「食」の魅力をはじめとした情報発信に努める。